

4 カーネーション切り花の日持ち改善

－ 採花時刻及び採花後の経過時間 －

ねらいと成果

業務用切り花の消費減退にともない、家庭需要の開拓が課題となっている。消費者が安心して切り花を購入できるようにするため、鮮度が高く、日持ちが長い切り花を供給することが求められている。カーネーションの品質保証を行うためには、採花後に日持ち剤（STS）を適切に処理することが必要である。そこで採花時刻や採花後STS処理までの経過時間の日持ちへの影響について調査した。

その結果、2℃の冷蔵庫内での処理液の吸液量はSTSの有無にかかわらず昼と夕方が多く、STS処理では日持ちに差がみられた。また9時間までの経過では日持ちは低下しなかった。

内容

ガラス温室内で養液土耕法で栽培（2003年7月10日定植）した品種「ノラ」を、2004年4月21日～5月18日に採花して日持ち調査に用いた。切り花長を60cmとし、1区5本で3反復した。1mMのSTS処理液または水道水を気温2℃の冷蔵庫内で1時間吸液後、輸送を模してダンボール箱に詰め、25℃で24時間経過保存した。基部を1cm切り戻して水道水に生け、気温25℃、相対湿度60%、蛍光灯により1000lxで24時間照明の室内に置いた。花卉の一部が褐変または萎凋した時点で日持ちの終了とした。

1 採花時刻と日持ち：朝（7：00）、昼（12：00）、夕方（19：00）、夜（0：00）に採花し、日持ちを調査した。水道水では昼と夕方の採花で吸液量が多かったが、採花時刻による日持ちの差は見られなかった（図1）。

STS処理では、昼と夕方の採花は吸液量が2.7、

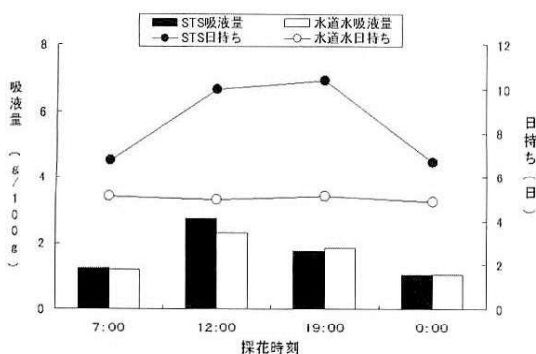


図1 採花時刻と日持ち、吸液量

1.8g（切り花100g当たり）と、朝と夜の1.2、1.0gより多く、日持ちも3.2～3.7日長かった。

以上の結果から、昼と夕方の採花でSTSの吸液量が多く、日持ちがよかった。なお、これらと異なる採花時刻では吸液量を確認しながらSTS処理を行う必要がある。

2 経過時間と日持ち：9～10時に採花し、25℃の室内のテーブル上で0（経過なし）、1、3、6、9、12、24時間経過後に日持ちを調査した。

採花後25℃で経過すると、時間の経過とともに切り花重が減少した（表）。

水道水ではカーネーション100g当たりの吸液量は24時間経過で2.8gと最も多く、次いで6時間となり、他は2.4gで変わらなかった（図2）。日持ちは3～9時間の経過で漸増する傾向がみられたが、24時間経過ではやや短かった。

STS処理では9時間までの経過では吸液量と日持ちが漸増する傾向がみられ、9時間経過では吸液量が2.9gと最も多く、日持ちも0.4日長かった。一方、12、24時間経過では吸液量が1.7、2.3gと少なく、日持ちも経過なしに比べて1.3、0.9日短かった。今後の方針

後処理剤を使用する一般家庭における消費を想定した変温条件下での日持ちを調査し、日持ち保証に必要な切り花の取り扱い方法及び出荷条件を実証する。 岩井 豊通（淡路農技・農業部）

表 採花後の経過時間と切り花重の減少率

経過時間(時間)	経過時間(時間)						
	0	1	3	6	9	12	24
切り花重減少率(%)	0	1.7	3.3	5.0	6.4	7.4	11.9

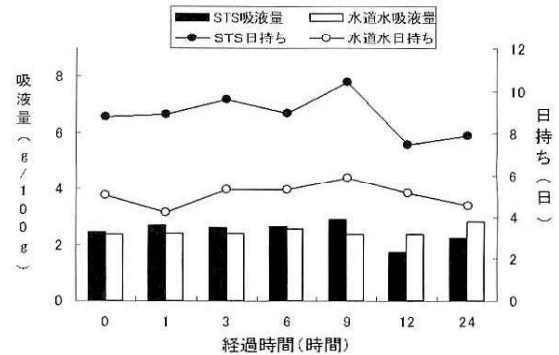


図2 採花後の経過時間と日持ち、吸液量